

平成26年度秋田県水産振興センター業務概要

平成26年5月

秋田県水産振興センター

平成26年度秋田県水産振興センター業務概要

目 次

1	位置	1
2	沿革	1
3	組織体制	1
	(1) 組織概要	
	(2) 職員数	
	(3) 業務分担	
4	事業概要	6
	(1) 当初予算	
	(2) 面積・建物・施設設備	
	①面積	
	②主要施設	
	③主要機器	
5	研究計画	10
	(1) 基本方針と目標（課題計画一覧表）	
	(2) 平成26年度実施課題	
	①課題一覧	
	②課題の内容	
	(3) 平成25年度終了課題報告	
6	主要行事・会議等	27
	(1) 主要行事・会議	
	(2) 研究管理のための場内会議・検討会	
7	技術支援	31
	(1) 委員委嘱	
	(2) 講師派遣	
	(3) 受入研修	
	①インターンシップ事業	
8	研究成果の発表・広報	33
	(1) 主要刊行物の発行状況	
	(2) 不定期刊行物の発行状況	
	(3) 実用化できる試験研究成果(平成23年度試験研究成果)	
	(4) 学会発表・研究会発表等	
	(5) 新聞等への掲載	
	(6) ホームページの更新・アクセス数	
	①ホームページの更新	
	②コンテンツアクセス数	
9	知的財産	38
	(1) 特許関連一覧	
10	視察・見学・総合学習	39

1 位置

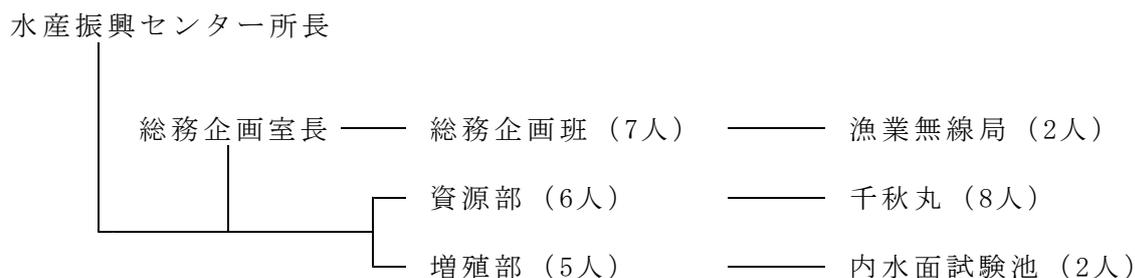
水産振興センター 秋田県男鹿市船川港台島字鶴ノ崎8番地の4
内水面試験池 秋田県北秋田市阿仁中村字戸草沢67

2 沿革

- 明治33年 : 水産試験場設立認可、南秋田郡土崎港御倉町に設立
- 明治35年 : 南秋田郡土崎港相染新田に移転
- 大正11年 : 南秋田郡土崎港町に新庁舎を建設
- 昭和15年 : 南秋田郡船越町に八郎湖養殖部を設置
- 昭和25年 : 南秋田郡船川港町に廃止となった国立水産試験場秋田分場の庁舎を得て移転
- 昭和32年 : 男鹿市船川港に新庁舎を建設
- 昭和36年 : 男鹿市船川港に水産講習所を設置
- 昭和40年 : 水産講習所を廃止し、沿岸漁民研修所を設置
- 昭和41年 : 男鹿市戸賀に水産種苗供給所、沿岸漁民研修所を設置
- 昭和42年 : 南秋田郡八郎潟町に八郎湖増殖指導所を設置
- 昭和44年 : 水産種苗供給所を水産試験場戸賀分場と改称
- 昭和47年 : 八郎湖増殖指導所を内水面水産指導所と改称
- 昭和55年 : 男鹿市船川港台島に栽培漁業センターを設置
水産試験場戸賀分場を廃止
- 昭和60年 : 男鹿市船川港台島に水産試験場、栽培漁業センター、沿岸漁民研修所を統合して水産振興センターを設置
- 平成 3年 : 内水面水産指導所を水産振興センターに統合
- 平成 5年 : 由利郡象潟町にアワビ種苗生産施設を設置
- 平成 6年 : 北秋田郡阿仁中村に内水面試験池を設置
- 平成18年 : 組織統合に伴い、秋田県農林水産技術センター水産振興センターに改称
- 平成20年 : アワビ種苗生産施設を水産漁港課に移管
- 平成24年 : 組織改変に伴い、秋田県水産振興センターに改称

3 組織体制

(1) 組織の概要



(2) 職員数

平成26年4月1日

区 分	事務職員	研究職員	技術職員	海事職員	現業職員	計
所長		1				1
総務企画室長			1			1
総務企画班	3		5		1	9
資源部		6		8		14
増殖部		6			1	7
計	3	13	6	8	2	32

(3) 業務分担

	部 班	業 務 内 容	職 名	氏 名
		水産振興センターの総括	所長	中村 彰男
総務企画室		総務企画室の総括、試験研究推進の総括、人事に関すること、機関横断的な連携研究の促進	室長	柴田 理
	総務企画班	総務企画班の総括、文書主任、人事・服務事務、予算編成・執行の管理、福利厚生・安全衛生管理、安全運転管理者、現金取扱員、物品取扱員、給与関係、社会保険・労働保険手続き、臨時職員・非常勤職員の任用と報酬・賃金の支出	主幹(兼)班長	石山 正喜
		県南地区の水産業普及指導、水産資源の増大・販売促進・消費拡大、漁業就業者確保総合対策、沿岸漁業改善資金、青年・女性漁業者交流大会、漁業士活動支援、全国場長会・湖沼河川養殖研究会、サケ増殖指導	副主幹	中林 信康
		県北地区の水産業普及指導、水産資源の増大・販売促進・消費拡大、栽培漁業、資源管理型漁業の推進、漁獲状況調査・把握、漁業就業者確保総合対策、青年・女性漁業者交流大会、漁業士活動支援、サケ増殖指導	専門員	白幡 義広
		漁業用海岸局、電波法(正)、ホームページ、施設見学(正)、事業報告書作成(正)、図書・資料の整理(正)、電子機器の動作	主査	伊藤 保
		文書副主任、予算(正)、決算(正)、監査(副)、物品調達・庁舎修繕、旅費、環境保全率先実行計画の推進、支払い	主査	菅原 剛

	部 班	業 務 内 容	職 名	氏 名
	総務企画班	各部・室の企画・調整、広報活動、研究運営協議会、試験研究課題評価、機関業務評価、サケ増殖指導、公設試中長期等の計画	主査	土田 織恵
		漁業用海岸局、電波法(副)、ホームページ、施設見学(正)、図書・資料の整理(正)、事業報告書作成(副)	主任	天野 正義
		公有財産、備品及び物品の管理、歳入、監査(正)、決算(副)、予算(副)、契約事務、支払い、情報化リーダー	主任	佐藤 弘康
		庁舎・施設の維持管理、公用車の管理、展示物・ふれあい水槽等の管理、施設見学(副)、資源調査関係データ入力補助	技能主任	秋山 博
資源部	資源部	資源部の総括、千秋丸の運航・管理、底魚資源管理手法の確立(タラ類・カレイ類・エビ類)、我が国周辺水域資源調査(生物情報収集及び沿岸資源動向調査)、八郎湖の水産資源(シジミ増殖・コイ活用)、底びき網漁具改良(副)	部長	山田 潤一
		水質分析試験、八郎湖の水質、貝毒生物モニタリング及び内水面の水質、公共用水域水質調査、十和田湖のヒメマスの維持培養(副)、薬品の管理	主任研究員	黒沢 新
		八郎湖のシジミ生態と生息環境、八郎湖の水産資源・プランクトン・底生生物、十和田湖のヒメマスの維持培養(プランクトン)(正)、水産資源に危害を及ぼす生物の被害防除(外来魚)、ハタハタの資源管理と活用(プランクトン)、我が国周辺水域資源調査(沖合海洋観測等調査及び漁場別漁獲状況調査)(副)	主任研究員	高田 芳博
		底魚資源管理手法の確立(ズワイガニ・ヒラメ)、我が国周辺水域資源調査(ズワイガニ・ヒラメ)、十和田湖のヒメマスの維持培養(放流・胃内容)、クニマス生態調査、水産資源に危害を及ぼす生物の被害防除(カワウ)、公共用水域水質調査(副)	専門員	渋谷 和治

	部 班	業 務 内 容	職 名	氏 名
	資源部	資源管理型漁業推進総合対策、ハタハタの資源管理と活用(資源・生態・産卵場・藻場調査)、底魚資源管理手法の確立(稚魚調査)、底びき網の漁具改良(副)、情報化リーダー	主任研究員	甲本 亮太
	(海事職員)	大型クラゲ出現調査・情報提供、貝毒成分モニタリング、ハタハタの資源管理と活用(漁獲物の活用)、我が国周辺水域資源調査(沖合海洋観測等調査・漁場別漁獲状況調査)(正)、漁業情報サービスセンター関係(漁獲情報収集)、底びき網の漁具改良(正)	研究員	小笠原 誠
		千秋丸の保安管理・観測・調査	船長	船木 正人
		千秋丸の機関部管理・漁労機器操作管理	機関長	佐藤 正則
		調査船業務全般	主任	石川 肇
		〃	技師	吉田 正勝
		〃	技師	田口 重直
		〃	技師	船木 勝美
		〃	技師	寺地 努
		〃	技師	佐藤 賢人
増殖部	増殖部の総括、種苗生産・栽培漁業施設の管理及び更新、内水面試験池の運用、内水面全般、海面増養殖指導、種苗生産技術の高度化(ガザミ)(副)、サクラマス水系別増殖技術確立、栽培漁業協会	部長	兒玉 公成	
	餌料培養(ワムシ)(正)、種苗生産技術の高度化(トラフグ、アユ)、トラフグ稚魚生産育成放流技術、藻場と磯根資源の維持・増大及び活用に関する技術開発(ワカメ)、秋田オリジナルワカメ拡大	主任研究員	斎藤 和敬	
	藻場と磯根資源の維持・増大及び活用に関する技術開発(藻場)、魚類防疫、情報化リーダー	研究員	保坂 芽衣	
	藻場と磯根資源の維持・増大及び活用に関する技術開発(アワビ・イワガキ)、種苗生産技術の高度化(ガザミ)(正)、餌料培養(ワムシ)(副)、種苗生産技術の高度化(トラフグ、アユ)(副)、秋田オリジナルワカメ拡大(副)	技師	松山大志郎	

	部 班	業 務 内 容	職 名	氏 名
	増殖部	種苗生産用マダイ・ヒラメ親魚管理、栽培漁業施設の保守・維持管理、栽培漁業機器の保守・維持管理、種苗生産・放流・増養殖試験・調査補助	技能主任	東海林善幸
	(内水面試験池)	内水面試験池の管理運営、サクラマス水系別増殖技術の確立(調査)(正)、水系別在来溪流魚の確保と増殖技術確立、アユ資源調査、河川・湖沼重要水産資源の増殖技術の改善・指導(簡易魚道・産卵場)、内水面増殖指導、クニマス増殖(副)、情報化リーダー	主任研究員	佐藤 正人
		サクラマスの水系別増殖技術の確立(生産・指導)、天然遡上アユの親魚養成、内水面増殖指導、クニマス増殖(正)、サクラマスの水系別増殖技術の確立(調査)(副)、河川・湖沼重要水産資源の増殖技術の改善・指導(簡易魚道・産卵場)(副)、十和田湖のヒメマスの維持培養(放流・胃内容)(副)、魚類防疫士養成研修	技師	八木澤 優

4 事業概要

(1) 当初予算

(単位：千円)

事業名	当初予算額 (事業費)	摘要
(1) 給与費	240,086	
(2) 管理運営費	65,161	
1) 管理運営費	32,587	・事務管理経費、建物の維持管理費
2) 研究施設維持管理費	24,655	・事務管理経費、施設・船舶維持管理費
(3) 魚類防疫対策事業	1,118	・魚病の発生予防、蔓延防止
4) 公共業務用無線通信業務費	6,801	・漁業無線通信業務費
(3) 研究推進活動費	3,044	・研究員の資質向上等活動経費
(4) 研究活動費	32,668	
1) 政策研究費	23,566	・新規課題；2、継続課題；4、計6
2) 外部資金活用研究費	9,102	・新規課題；0、継続課題；2、計2
(5) 施設・設備整備費	7,452	・海水濾過設備濾材取替整備、備品購入
計	348,411	

(2) 面積・建物・施設設備

① 敷地面積（総面積 60,284.15㎡）

区分	面積（㎡）
本館棟及び栽培漁業施設	37,287.21
船舶棟	3,600.00
戸賀施設	4,606.11
内水面試験池	13,106.93
公舎跡地	1,095.90
千秋丸機器材置場	588.00
計	60,284.15

② 主要施設

(本館棟及び栽培漁業施設)

名称	面積(㎡)	構造
本館棟	2,207.22	鉄筋コンクリート3階建て
生物実験室	115.51	
化学実験室	141.32	
魚病実験室	68.43	
職員室	178.15	
電算機室	25.00	
実験水槽棟	450.00	鉄骨造り平屋建て FRP円形水槽30トン×2基 10トン×5基 5トン×2基
魚類甲殻類棟	520.05	シート角形水槽10トン×2基 鉄骨造り平屋建て 鉄筋コンクリート製水槽50トン×10面

名 称	面積 (m ²)	構 造
巡流水槽棟	720.00	鉄骨造り平屋建て 鉄筋コンクリート製水槽20トン×2面 FRP巡流水槽15トン×10基
魚類棟	837.80	鉄骨一部鉄筋コンクリート造り2階建て 鉄筋コンクリート製水槽100トン×8面
ワムシ培養棟	540.00	鉄骨造り平屋建て 鉄筋コンクリート製水槽20トン×12面 5トン×6面
グリーン培養池	522.40	(屋外) 鉄筋コンクリート製水槽80トン×4面 40トン×4面 28.8トン×1面
屋外種苗生産池	332.77	(屋外) 鉄筋コンクリート製水槽100トン×4面
海水取水管		内外面ライニング鋼管φ508mm、240m 着水槽 鉄筋コンクリート造り40.8m ³
揚水ポンプ棟	29.03	コンクリートブロック造り平屋建て 取水ポンプ (FPS型吸込渦巻ポンプ) (4トン/min×34m、37kw) ×3台 真空ポンプ (NVD型水封式ポンプ) (0.1トン/min、0.4kw) ×2台 送水管 (塩化ビニール製) φ300mm×416m
海水濾過槽	115.00	鉄筋コンクリート造り平屋建て 200トン/hr×2基 (重力式濾過)
海水貯水槽	96.53	鉄筋コンクリート造り平屋建て 海水300トン×1基
海水・淡水貯水槽		鉄筋コンクリート造り平屋建て 海水200トン×1基、淡水100トン×1基
淡水取水施設	82.80	貯水槽 鉄筋コンクリート造り50トン 取水管 塩化ビニール製φ100mm×220mm 取水ポンプ 10トン/hr×2台
淡水濾過槽		鋼製φ1500mm×H1500mm 10トン/hr×1台
揚水コントロール槽	11.20	コンクリートブロック造り平屋建て 濾過槽逆洗用コンプレッサー (165リットル/min、15kw) ×1台

名 称	面積 (m ²)	構 造
機械棟	182.00	鉄筋コンクリート造り平屋建て 変電設備 発電機 125KVA 冷蔵庫 2.2kw、 4℃、 4.4m ² 冷凍庫 10.8kw、 -50℃、 21.2m ² ブロワー15kw 10.0トン/min×1台 7.5kw 6.0トン/min×2台
ボイラー室	45.00	コンクリートブロック造り平屋建て 温水ボイラー 200,000kcal/hr×2台 160,000kcal/hr×1台 鉄筋コンクリート製
排水濾過槽	231.00	(530トン)
作業員詰所	175.86	木造平屋建て
車庫棟	206.25	鉄骨造り平屋建て
倉庫棟	252.00	鉄骨造り平屋建て
船舶棟	400.80	木造一部鉄骨造り平屋建て

(内水面試験池)

名 称	面積 (m ²)	構 造
管理棟	91.91	木造平屋建て
試験棟	505.44	鉄骨造平屋建て FRP円形水槽 1トン×26基 3トン×10基 FRP角形水槽 1トン×10基 アトキンス2kふ化槽×3基 " (増収型) ×3基
人工河川		流路延長 163.7m 上流域 52.1m 中流域 82.8m (魚道魚巢試験区1.5×10×2m) 下流域 28.8m
サクラマス親魚 養成池	122.17	
排水沈殿槽	55.65	鉄筋コンクリート製 166.95トン (2.65×21×3m)
屋外水槽		FRP円形水槽 30トン× 6基 10トン×10基 FRP巡流水槽 30トン× 5基

③主要機器

品名 (用途)	主な利用部門
水中カメラ放送システム	資源部
モイストペレットマシーン	増殖部

5 研究計画

(1) 基本方針と目標

◎現状と課題

栄養のバランスに優れた魚介類は、健全な食生活に不可欠なものであり、健康志向の高まりなどから安全で新鮮な水産物への需要が高まっている。

しかし、本県の水産業は、漁業就業者の減少と高齢化の進行、主要魚介類の資源水準の低下、幼稚仔の保育場や産卵場としての機能を有する藻場の減少、魚価の低迷など厳しい状況にあり、県民に安全で新鮮な地場水産物を安定供給するためには、適正な水産物価格を維持するとともに、資源の増殖、適正管理が大きな課題となっている。

また、漁業生産の場である沿岸域、河川・湖沼は、近年のアウトドア志向の高まりから釣りを始めとするレクリエーションの場としての役割も重要となってきた。しかし、沿岸においては、ゴミの入網や漂着などが顕著になってきており、内水面においては自然な状態が保たれた河川・湖沼が減少し、オオクチバスなどの外来魚が急速に分布を拡大しているほかカワウの出現による漁業被害が懸念されるなど、海面、内水面を通じて環境の改善と保全が大きな課題となっている。

◎主要な試験研究目標

水産資源の特徴として、自己更新（自己再生産）する、変動が大きい、過剰漁獲に陥りやすい、などが挙げられる。また、水産資源は生物資源であることから、生産力は環境との対応により決定される。これらのことから、水産資源の持続的な利用を図るために、漁場環境の保全と資源の適正利用を基本に、資源の管理、資源の添加、養殖、漁場の整備などに関する調査・研究を実施する。また、漁家経営の安定と後継者確保の対策を行うとともに、漁業者の生産物が地元企業によって加工に結びつくような、原材料と加工技術のマッチング体制の支援を行っていく。

具体的には、平成22年度に策定、平成26年度に改定した秋田県水産振興センター中長期計画に掲げるように、『水産業の振興』に資するために、『水産動植物の生息環境の把握』と『漁業者等が主体的に資源管理や増殖に取り組める仕組みづくりとそのための支援』をミッションとし、6つの基本方針「Ⅰ 漁場環境の変化の把握及びそれに対応した技術開発」、「Ⅱ 売れ筋になる『秋田ブランド』の育成」、「Ⅲ 少量多魚種をバランス良く活用するシステムの構築」、「Ⅳ 放流効果の向上や生物多様性に配慮した増殖技術の開発」、「Ⅴ 水産業への理解の促進と担い手の育成」、「Ⅵ 売れる水産加工品の開発支援」に基づき、次の14項目を重点テーマとして取り組んでいく。

【重点テーマ】

- ① 藻場の多様な機能を維持・増大させる技術の確立
- ② 漁場環境の変化に対応した水産資源の再生産に結びつく技術開発
- ③ ハタハタの資源管理型漁業の推進
- ④ 秋田ブランドとなる種の種苗生産・放流技術の開発
- ⑤ 秋田に適した貝類・藻類に関する技術開発
- ⑥ サクラマス水系別増殖・管理技術の開発
- ⑦ 底魚資源の管理手法の確立
- ⑧ 未利用魚の活用の推進
- ⑨ つくり育てる漁業の推進に関する技術開発
- ⑩ 内水面における重要種の増殖・管理技術の確立
- ⑪ 若年層を主体とした水産業への興味・職業観の醸成
- ⑫ 漁業の担い手の育成支援
- ⑬ 新たな漁業技術の現地普及
- ⑭ 総合食品研究センター等との連携による水産加工品の開発・技術支援

重点的に取り組む研究等のテーマのロードマップ

基本方針Ⅰ 漁場環境の変化把握及びそれらに対応した技術開発

重点テーマ① 藻場の多様な機能を維持・増大させる技術の確立 魚介類の産卵場や育成場など多様な機能を持つ藻場の造成技術を開発する。										
課題名等	H23～H25(3年間)			H26～29(4年間)				H29～H32(4年間)		
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
藻場減少要因の解明と造成に関する実証(H23～32) ハタハタを始めとする魚介類の産卵場、生育場として重要な藻場が近年減少傾向にあることから、養食性動物の影響や海域環境の変化などによる藻場の減少要因を解明し、藻場の造成や回復手法を確立する。	機根藻場高度化利用技術の確立(H19～23)									
	藻場減少要因の解明に関する研究(H24～28)									
				藻場造成に関する実証試験(県南部)(H28～32)						
								藻場造成に関する実証試験(男鹿)(H30～32)		

重点テーマ② 漁場環境の変化に対応した水産資源の再生産に結びつく技術開発 海洋・内水面環境について長期的に把握するとともに、変化した環境に対応した魚介類の増養殖技術開発に取り組む。										
課題名等	H23～H25(3年間)			H26～29(4年間)				H29～H32(4年間)		
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
海洋・内水面環境の長期変動把握と水産資源保全技術の開発(H21～32) 近年、レジームシフトによる資源の変動やエチゼンクラゲの大量発生が顕著になってきており、本県漁業への影響が懸念される。このため、漁場環境の変化を把握するとともに、その対応策を検討する。	環境変動の指標となる海洋・内水面環境の長期変動の把握(H21～32)									
				水産資源を健全に保つための技術の開発(H28～32)						

基本方針Ⅱ 売れ筋になる「秋田ブランド」の育成

重点テーマ③ ハタハタの資源管理型漁業の推進 安定的なハタハタ資源の維持のために資源量推定の精度向上を図るとともに、漁業経済の面からの資源利用について検討する。											
課題名等	期間	H23～H25(3年間)			H26～29(4年間)				H29～H32(4年間)		
		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
ハタハタの資源管理型漁業の推進 (H22～32) 平成7年度から行っている、漁獲可能量制度が定着しているが、年により生残率に差があり、年齢組成に偏りが見られる。また、安定した漁獲量を維持するため、回遊範囲などの最近の知見を加えた解析をし、資源量推定の精度を向上させる。 ハタハタは、漁期が短期に集中する魚種であり、魚価が低迷していることから、今後の資源管理のあり方や漁業経済の面からの漁獲・流通のあり方を検討する。	資源変動要因の解明(H22～25)	▶							長期的な資源変動傾向の予測(H31～)		
	資源安定化技術の確立(H22～25)	▶									
	回遊範囲の見直しと資源量推定精度の向上(H26～30)				▶						
	資源の効率的利用対策の検討(H29～32)								▶		

重点テーマ④ 秋田ブランドとなる種の種苗生産・放流技術の開発 秋田ブランドとして売り出している栽培対象種の種苗生産・放流技術を開発する。											
課題名等	期間	H23～H25(3年間)			H26～29(4年間)				H29～H32(4年間)		
		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
種苗生産技術の高度化に関する研究(H23～32) 北限の秋田ふぐ等、秋田ブランドとして売り出している栽培対象種や成長の良いアユについて種苗生産技術の高度化や放流技術開発を行う。	トラフグ親魚確保・育成、放流通サイズ育成事業(H22～26)	▶									
	種苗生産技術の高度化に関する研究:トラフグ・アユ(H23～26)	▶									
	秋田県沿岸域におけるトラフグの資源生態の把握(H25～29)				▶						
	効率的なアユ種苗生産技術に関する研究(H27～31)								▶		
	トラフグ放流効果技術開発試験(H27～32)								▶		

重点テーマ⑤ 秋田に適した貝類・藻類に関する技術開発											
秋田の海域の環境条件に合致した貝類及び藻類の増養殖技術を開発する。											
課題名等	期間			H23～H25(3年間)				H26～29(4年間)			H29～H32(4年間)
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	
秋田に適した貝類・藻類に関する増養殖技術開発(H19～32) 全国トップクラスの漁獲量を誇るイワガキや県南部沿岸の重要種であるアワビについて、資源及び漁獲量を高位に維持・安定させるための技術を開発する。また、三種産ワカメに比べ、柔らかく生食に向いている秋田産天然ワカメに由来する「秋田オリジナルワカメ」の育種と養殖技術開発を行う。	磯根漁場高度化利用技術の確立(H19～23)										
				藻場と磯根資源の維持・増大及び活用に関する技術開発(H24～28)							
				ワカメ、メカブ等藻類の養殖技術開発(H24～H28)							
	イワガキの資源添加技術の開発(H20～24)										
								アワビ、イワガキ等貝類の秋田型増養殖技術開発(H29～H32)			

重点テーマ⑥ サクラマス水系別増殖・管理技術の開発											
サクラマスの資源増大を図るため、内水面漁協等が行うふ化放流事業が円滑に行われるよう、各水系の条件に合った増殖・管理技術を確立する。											
課題名等	期間			H23～H25(3年間)				H26～29(4年間)			H29～H32(4年間)
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	
水系別サクラマスの増殖・管理技術確立(H22～32) 漁協等が行う、サクラマスの増殖事業をより安定的に行うため、内水面試験池で米代川、雄物川、子吉川の3水系の特性に適合した増殖技術の検討を行う。また、サクラマスの産卵場の拡大のため、簡易な魚道と増殖場の造成手法について漁業者や内水面漁協等への技術移転を行う。				小型種苗と継代飼育魚の標識放流、追跡調査(H22～26)							
				放流種苗の回帰状況の把握(H24～29)							
								コストの低減、遺伝的多様性に配慮した効率的な増殖技術の確立(H27～32)			
	水系別サクラマス稚魚の確保(H22～23)										
	水系別サクラマスの親魚養成、繁殖形質、生態の把握(H22～26)										
								水系別増殖技術の検討(H27～32)			
	回帰親魚の採捕状況調査(H22～26)										
								回帰親魚の資源状況の把握(H27～32)			

基本方針Ⅲ 少量多魚種をバランス良く活用するシステム構築

重点テーマ⑦ 底魚資源の管理手法の確立 本県の基幹漁業である底曳網について、一部の魚種に漁獲を集中させることなく、少量多品種を有効に利用して長期的に安定して漁獲する資源管理手法を確立する。											
課題名等	H23～H25(3年間)			H26～29(4年間)				H29～H32(4年間)			
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	
底魚資源の管理手法の確立(H22～32) 本県の基幹漁業である底びき網漁業では、70種以上の魚介類が漁獲されている。このうち、量的に多い魚種としてはハタハタのほかマダラ、スケトウダラ、ホッケ、カレイ類等が挙げられるが、資源が増加しつつある魚種に漁獲が集中し、漁獲の安定を妨げている場合がある。このため、魚種毎に数年後の資源状態を予測して、複合的な資源管理を行える種にし、資源の有効活用と漁家所得の安定に結びつける。	新規漁獲加入群の資源豊度に関するデータ収集と調査手法の確立(H22～26)										
	漁獲対象資源量の推定手法の確立(H25～28)										
	底魚資源の効率的利用対策の検討・提示(H27～32)										

重点テーマ⑧ 未利用魚の活用の推進 混獲魚として処理される、価値の低い魚類について利用方法の検討を行い、資源状況を調査する。											
課題名等	H23～H25(3年間)			H26～29(4年間)				H29～H32(4年間)			
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	
未利用魚の利用と資源調査(H27～32) 価値の低い混獲魚として処理されている未利用魚の中には、異なる地域ではその価値が認められている魚種もある。また、未利用魚を有効活用することにより漁家所得の安定にもつながる。このため、未利用魚の漁獲実態の把握と有効活用方法の検討を行う。	未利用魚の有効活用方法の検討(H27～31)										
	有効利用する魚類の資源調査(H29～32)										

基本方針Ⅳ 放流効果の向上や生物多様性に配慮した増殖技術の開発

重点テーマ⑨ つくり育てる漁業の推進に関する技術開発 栽培漁業の対象種について、種苗生産技術の高度化を図るほか、既存の栽培対象種の放流効果を高める。											
課題名等	H23～H25(3年間)			H26～29(4年間)				H29～H32(4年間)			
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	
栽培漁業の効率化に関する研究(H23～32) 栽培漁業の対象種であるガザミ種苗生産の生産率向上について技術開発する。 また、漁業者の所得向上に資する新たな栽培対象魚種の種苗生産技術の開発を行う。	種苗生産技術の高度化に関する研究：ガザミ(H23～26)										
	ガザミの放流技術の高度化に関する研究(H27～32)										
	新規栽培魚種の種苗生産技術の開発(H30～32)										

重点テーマ⑩ 内水面における重要種の増殖・管理技術の確立										
アユの遺伝的多様性に配慮した種苗生産技術、及び天然資源の増殖・管理技術を開発する。また、特定河川の固有資源としてのイワナの増殖・管理技術を確立する。										
課題名等	H23～H25(3年間)			H26～29(4年間)				H29～H32(4年間)		
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
アユの増殖技術の確立(H22～32) 天然魚に由来するアユ種苗は遺伝的な多様性を保持し、冷水病耐性や線様りを形成する性質が強く、釣り人からも人気があることから、天然魚由来アユの親魚養成及び採卵技術を確立する。天然アユについても遡上状況や生育、釣獲状況の調査や産卵親魚の保護、産卵場造成等によりアユ資源の把握、管理技術の確立に努める。 近年、要望が高まっている八部湖のシジミ資源の増殖及びコイ・フナ資源の活用技術開発に努める。	天然アユの採捕・親魚養成・採卵技術の確立(H22～26)									
	天然遡上、成育、釣獲状況の把握(H21～32)									
	産卵場調査(H21～25)									
				再生産力を活用したアユの増殖管理技術の確立(H26～32)						
				八部湖コイ・フナ資源の活用手法開発(H26～29)						
				八部湖シジミの生態把握、回復手法開発(H26～30)						
								八部湖シジミ増殖実用化試験(H31～)		
在来イワナの増殖・管理技術の確立(H22～26) 3水系においてイワナの放流履歴のない場所を探索し、在来イワナを特定し、種苗生産について検討する。	親魚養成採卵育成技術の確立、繁殖形質の把握(H22～26)									

基本方針Ⅴ 漁業への理解の促進と担い手の育成

重点テーマ⑪ 若年層を主体とした漁業への興味・職業観の醸成										
漁業の担い手となる人材の裾野を広げるため、若年層を主体とした海や魚介類、漁業についての普及を図る。										
課題名等	H23～H25(3年間)			H26～29(4年間)				H29～H32(4年間)		
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
水産振興センター施設見学等 漁業調査指導船「千秋丸」を活用した男鹿海洋高校生の体験乗船や県立大学生のインターンシップを積極的に受け入れ、水産業に対する興味を高める方向に誘導するほか、小学生に対しては、総合学習で訪れる栽培漁業見学の受け入れを通じて、水産業に対する関心を高める。	水産振興センターの施設・設備活用体験									
	出前講座などへの講師派遣									
	インターンシップ受け入れ									
				男鹿海洋高校乗船体験受け入れ(H25～)						

重点テーマ⑫ 漁業の担い手の育成支援 漁業後継者の育成支援や千秋丸等水産振興センターの施設・設備を活用した漁業者のスキルアップ支援を行う。										
課題名等	H23～H25(3年間)			H26～29(4年間)				H29～H32(4年間)		
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
漁業の担い手の育成支援 漁業に就業したい人材を掘り起こし、豊かな経験を持つ漁業者とのマッチングによる新規就業者の確保を図るほか、千秋丸等の施設・設備を活用して、新たな技術の取得や研究グループによる実証試験など漁業者のスキルアップ支援を行う。	漁業の担い手掘り起こしと先進漁業者による技術継承マッチング									
	水産振興センターの施設・設備を活用した漁業者のスキルアップ(H25～)									

重点テーマ⑬ 新たな漁業技術の現地普及 水産振興センターの調査研究により得られた技術の現地普及。										
課題名等	H23～H25(3年間)			H26～29(4年間)				H29～H32(4年間)		
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
漁業技術の現地普及 確立した種苗生産技術、改良した漁獲や養殖の技術など、調査研究により得られた技術を、普及指導員による実証試験や情報提供を通じて早期に現場に普及する。	新技術の実証試験と成果普及活動									

基本方針VI 売れる水産加工品の開発支援

重点テーマ⑭ 総合食品研究センター等との連携による水産加工品の開発・技術支援 魅力ある水産加工品の開発のため、総合食品研究センターと連携した基礎試験や漁業者と企業が一緒に取り組める水産加工対策の態勢づくりを行う。										
課題名等	H23～H25(3年間)			H26～29(4年間)				H29～H32(4年間)		
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
水産加工品開発支援 6次産業化を見据え、漁業者と企業の連携による水産加工品開発や企業が行う新たな加工品開発の支援のため、総合食品研究センターと連携した基礎試験や水産加工対策の態勢づくりを行う。	シーズとニーズのマッチング(H25～)									
	水産加工対策の態勢づくり(H20～)									

(2) 平成26年度実施課題

① 課題一覧

課題 番号	課題名	研究期間	当初予算 (千円)	分担	頁
1	生物の多様性に配慮した内水面増養殖技術の確立に関する研究	H22～26	3,264	増殖部	17
2	底魚資源管理手法の確立に関する研究	H22～26	1,085	資源部	18
3	種苗生産技術の高度化に関する研究	H23～26	12,173	増殖部	19
4	藻場と磯根資源の維持・増大及び活用に関する技術開発	H24～28	917	増殖部	20
5	ハタハタの資源管理と活用に関する研究	H26～30	5,092	資源部	21
6	シジミなど湖沼河川の水産資源の維持、管理、活用に関する研究	H26～30	1,035	資源部・増殖部	22
7	我が国周辺水域資源調査	H17～	6,752	資源部	23
8	大型クラゲ出現調査及び情報提供事業	H18～	2,350	資源部	24

② 課題の内容

事業名	生物の多様性に配慮した内水面増養殖技術の確立に関する研究				担当	資源部																																			
事業年度	平成22～26	事業主体	県		当初予算額	3,264 千円																																			
事業目的	平成20年に生物多様性基本法が施行されたほか、内水面において漁協が実施する種苗放流等の増殖行為においても、地域の自然的・社会的条件に応じた生物多様性の保全及び持続可能な利用が求められていることから、これらに配慮しつつ、地域に適合して効果的な増殖技術の確立を図る。				財	国庫	千円																																		
					源	一般	3,257 千円																																		
					内	諸収入	7 千円																																		
					訳																																				
実施内容	<p>1 サクラマス水系別増殖技術の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 水系別の稚魚の育成及び増殖・管理技術の確立 <p>2 天然遡上アユに由来する良く釣れるアユの種苗生産</p> <ul style="list-style-type: none"> 人工種苗の安定的供給技術の確立 <p>3 水系別在来渓流魚の確保と育成</p> <ul style="list-style-type: none"> DNA解析による水系別在来イワナの特定と確保 水系に適合したイワナ増殖・管理技術の確立 <p>4 サケの育成・放流指導、資源管理技術の確立</p> <p>5 河川・湖沼重要水産資源の増殖技術の改善・指導</p> <ul style="list-style-type: none"> アユ・サクラマスの簡易魚道・産卵場造成試験、発眼期設置放流指導 																																								
	<p>全体計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>22</th> <th>23</th> <th>24</th> <th>25</th> <th>26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サクラマス水系別増殖技術の確立</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>天然遡上アユに由来する良く釣れるアユの種苗生産</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>水系別在来渓流魚の確保と増養殖技術の確立</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>サケの育成・放流指導、資源管理技術の確立</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>河川・湖沼重要水産資源の増殖技術の改善・指導</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>							22	23	24	25	26	サクラマス水系別増殖技術の確立	○	○	○	○	○	天然遡上アユに由来する良く釣れるアユの種苗生産	○	○	○	○	○	水系別在来渓流魚の確保と増養殖技術の確立	○	○	○	○	○	サケの育成・放流指導、資源管理技術の確立	○	○	○	○	○	河川・湖沼重要水産資源の増殖技術の改善・指導	○	○	○	○
	22	23	24	25	26																																				
サクラマス水系別増殖技術の確立	○	○	○	○	○																																				
天然遡上アユに由来する良く釣れるアユの種苗生産	○	○	○	○	○																																				
水系別在来渓流魚の確保と増養殖技術の確立	○	○	○	○	○																																				
サケの育成・放流指導、資源管理技術の確立	○	○	○	○	○																																				
河川・湖沼重要水産資源の増殖技術の改善・指導	○	○	○	○	○																																				
事業績	<p>予算（単位：千円） *H21年度までは内水面総合技術開発試験の予算額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>19</th> <th>20</th> <th>21</th> <th>22</th> <th>23</th> <th>24</th> <th>25</th> <th>26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当初</td> <td>4,983</td> <td>4,341</td> <td>3,972</td> <td>4,944</td> <td>5,304</td> <td>4,193</td> <td>4,290</td> <td>3,264</td> </tr> <tr> <td>最終</td> <td>4,821</td> <td>4,340</td> <td>3,976</td> <td>5,025</td> <td>5,304</td> <td>4,104</td> <td>4,290</td> <td>(見込み)</td> </tr> </tbody> </table>							19	20	21	22	23	24	25	26	当初	4,983	4,341	3,972	4,944	5,304	4,193	4,290	3,264	最終	4,821	4,340	3,976	5,025	5,304	4,104	4,290	(見込み)								
		19	20	21	22	23	24	25	26																																
当初	4,983	4,341	3,972	4,944	5,304	4,193	4,290	3,264																																	
最終	4,821	4,340	3,976	5,025	5,304	4,104	4,290	(見込み)																																	
<p>1 水系別在来渓流魚の確保と増養殖技術の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 雄物川水系役内川、米代川水系水尻沢川から在来イワナを確保し、育成・採卵した。雄物川水系役内川、米代川水系阿仁川及び子吉川上流における在来個体群の生息状況について調査した。 <p>2 よく釣れる天然アユを由来とする種苗生産</p> <ul style="list-style-type: none"> 阿仁川に遡上したアユを養成し、9月下旬に採卵して、種苗生産に供した。 <p>3 サクラマス水系別増殖技術の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 阿仁川に遡上したサクラマスの標識放流、追跡調査を行うとともに、3水系においてサクラマスの釣獲試験を行った。 <p>4 サケの育成・放流指導、資源の管理技術の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 河川別回復状況を明らかにするとともに、卵・稚魚の管理・育成指導を行った。 <p>5 河川・湖沼重要水産資源の増殖技術の改善・指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ワカサギのふ化放流改善試験のほか、3箇所においてサクラマスの簡易魚道試験を実施し、9箇所で産卵場の造成試験を実施した。 																																									

事業名	底魚資源管理手法の確立に関する研究			担当	資源部																																			
事業年度	H22～26	事業主体	県	当初予算額	1,085 千円																																			
事業目的	底びき網漁業の主対象魚類の新規漁獲加入前の資源豊度を把握し、それらが漁獲対象となる時点における複数魚種を組み合わせた利用管理手法の検討を行う。具体的にはタラ類、カレイ類、エビ類、ズワイガニを対象に調査船による底びき網試験操業により、仔稚魚、未成魚の状況を把握するとともに、その後の漁獲状況との関連から魚種毎の資源量を推定する手法を確立し、対象資源の状況に応じた管理手法を検討する。			財源	国庫	千円																																		
					一般	885 千円																																		
				内訳	財産	200 千円																																		
					諸収入	千円																																		
実施内容	1 調査手法の確立 <ul style="list-style-type: none"> 目的達成に適した調査定点及び漁獲データ把握方法の確立 2 新規加入前資源の把握 <ul style="list-style-type: none"> 調査船を用いた試験操業によるデータ収集 3 漁獲データの収集 <ul style="list-style-type: none"> 時期・場所・銘柄別漁獲量の把握 4 資源推定手法の確立 <ul style="list-style-type: none"> 加入前データと漁獲対象資源量の関連把握 5 漁業管理手法の検討 <ul style="list-style-type: none"> 複数の対象種を組み合わせた管理手法の検討 																																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>全体計画</th> <th>22</th> <th>23</th> <th>24</th> <th>25</th> <th>26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>調査手法の確立</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>新規加入前資源の把握</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>漁獲データの収集</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>資源量推定手法の確立</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>漁業管理手法の検討</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>					全体計画	22	23	24	25	26	調査手法の確立	○	○				新規加入前資源の把握	○	○	○	○	○	漁獲データの収集		○	○	○	○	資源量推定手法の確立				○	○	漁業管理手法の検討				
全体計画	22	23	24	25	26																																			
調査手法の確立	○	○																																						
新規加入前資源の把握	○	○	○	○	○																																			
漁獲データの収集		○	○	○	○																																			
資源量推定手法の確立				○	○																																			
漁業管理手法の検討					○																																			
事業実績	<p>予算（単位：千円） *H21年度までは水産資源変動要因調査の予算</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>19</th> <th>20</th> <th>21</th> <th>22</th> <th>23</th> <th>24</th> <th>25</th> <th>26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当初</td> <td>5,673</td> <td>5,645</td> <td>5,289</td> <td>4,470</td> <td>3,844</td> <td>2,822</td> <td>1,690</td> <td>1,085</td> </tr> <tr> <td>最終</td> <td>5,545</td> <td>5,404</td> <td>5,645</td> <td>5,287</td> <td>3,844</td> <td>2,817</td> <td>1,690</td> <td>(見込み)</td> </tr> </tbody> </table>									19	20	21	22	23	24	25	26	当初	5,673	5,645	5,289	4,470	3,844	2,822	1,690	1,085	最終	5,545	5,404	5,645	5,287	3,844	2,817	1,690	(見込み)					
		19	20	21	22	23	24	25	26																															
当初	5,673	5,645	5,289	4,470	3,844	2,822	1,690	1,085																																
最終	5,545	5,404	5,645	5,287	3,844	2,817	1,690	(見込み)																																
<p>平成8年度まで漁業試験として実施し、16年度からは漁場環境調査と人工魚礁増殖場関連調査の一部、水産資源調査、計量魚探を用いた資源評価手法の開発、の各調査を統合して「水産資源変動要因調査」とした。 平成21年度でこれを終了し、22年度に新たに本調査を起こした。</p> <p>1 底生魚類稚魚調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 底魚類について、水深や底質を基準とした調査海区を設定した。 千秋丸の開口板付ひき網により、ハタハタ、タラ類、カレイ類等の底魚類稚魚の年別発生量の評価の標準化を行うとともに、当歳魚の分布密度を把握した。 ハタハタの稚魚の発生から深部に至るまでの生き残りが、その後の資源量を決定することが示唆され、主に開口板付ひき網を用いて追跡調査を継続している。 <p>2 底魚魚類調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 千秋丸の底びき網試験操業によりハタハタ、タラ類、カレイ類、エビ類、ズワイガニなどを採集し、年齢組成、産卵時期、資源量指数などを把握した。 																																								

事業名	種苗生産技術の高度化に関する研究			担当	増殖部				
事業年度	H23～H26	事業主体	県	当初予算額	12,173千円				
事業目的	昭和55～平成22年度まで行われた種苗生産事業で得られた成果を基に、真菌症の発生により生産が不安定なガザミ、飼育期間が長期にわたり加温コストが嵩むアユ、生残率が不安定で噛み合いによる尾鰭欠損率が高いトラフグの3種について、種苗生産技術の高度化を図る。			財源	国庫	千円			
				内	一般	4,181千円			
				訳	財産	7,992千円			
実施内容	1 ガザミ種苗生産技術の高度化								
	<ul style="list-style-type: none"> 幼生～稚ガニ期までの生残率の向上 稚ガニ中間育成期の生残率の向上 								
	2 アユ種苗生産技術の高度化								
	<ul style="list-style-type: none"> 卵管理期間の短縮 仔稚魚期の飼育期間の短縮 								
実施内容	3 トラフグ種苗生産技術の高度化								
	<ul style="list-style-type: none"> 尾鰭欠損の少ない優良種苗の生産 仔稚魚期の飼育期間の短縮 								
	全体計画								
		23	24	25	26				
	ガザミ種苗生産技術の高度化				○	○	○	○	
	アユ種苗生産技術の高度化				○	○	○	○	
	トラフグ種苗生産技術の高度化				○	○	○	○	
実施内容	種苗生産・放流目標								
	対象種	サイズ	尾数等						
	ガザミ	甲幅10mm	51万尾 (甲幅5mm換算170万尾)						
	アユ	0.3g	500kg (体重0.3g/尾換算で167万尾)						
トラフグ	25mm	12万尾 (放流は50mmで88千尾)							
事業実績	予算 (単位:千円) 平成22年度までは「種苗生産事業」の予算額								
		19	20	21	22	23	24	25	26
	当初	28,653	11,169	11,373	11,210	12,500	16,537	15,717	12,173
	最終	28,149	10,869	11,292	11,135	15,860	16,537	16,935 (見込み)	
事業実績	H16年度から、種苗生産事業とトラフグ種苗生産技術開発試験を統合した。								
	<ul style="list-style-type: none"> クルマエビはH4から、アワビはH8から(財)秋田県栽培漁業協会が種苗生産。 マダイ、ヒラメはH20から栽培漁業協会が種苗生産。 クロソイについてはH21から栽培漁業協会が種苗生産。 								
	1 ガザミ								
	<ul style="list-style-type: none"> 真菌症の防除のための親ガニの選別、丈夫な1番仔の確保により、ゾエア幼生 (Z1) から稚ガニ (C1) までの生残率が向上した。 稚ガニの隠れ家を確保し共食いを防止、水質悪化防止のための生物餌料 (アルテミア) の給餌により、稚ガニ期 (C1→C3) の生残率が向上した。 								
事業実績	2 アユ								
	<ul style="list-style-type: none"> 筒型ふ化器等による受精卵の効率的な管理により、ふ化までの日数を短縮することができた。 ふ化日数の短縮による早期仔稚魚飼育の開始、適正給餌による効率的飼育及び成長により、出荷までの飼育期間を短縮することができた。 								
	3 トラフグ								
	<ul style="list-style-type: none"> 低照度下での飼育と給餌方式の改良により優良種苗を生産することができた (尾鰭正常度の向上)。 尾鰭の噛み合いの減少による効率的成長、成長及び飼育密度の抑圧による適正給餌、加温水の利用による成長促進により、放流までの飼育期間を短縮することができた。 								

事業名	藻場と磯根資源の維持・増大及び活用に関する技術開発				担当	増殖部
事業年度	H24～28	事業主体	県		当初予算額	917千円
事業目的	県南部沿岸のアワビ漁場を中心に「磯焼け」が拡大しているため、原因究明と藻場復元のための技術を開発する。また、イワガキの増殖技術、ワカメ・メカブの養殖技術、アワビの増養殖技術等の改良・開発を行い、磯根漁業の振興に資する。				財源	千円
					国庫	千円
					一般	917千円
					諸収入	千円
財源内訳						
実施内容	1 藻場の減少原因の解明と復元・造成技術開発					
	・ 藻場、環境、植食生物、栄養分等の現状把握、植食生物の駆除、海藻類の種苗添加、施肥技術開発等					
	2 イワガキ増殖技術開発					
	・ 外敵であるレイシガイの駆除、基質表面の効率的洗浄技術開発等					
	3 ワカメ・メカブ養殖技術開発					
・ フリー培養によるワカメ種苗量産、ワカメ優良品種の選定・改良と養殖作業の省力化、メカブ養殖試験等						
実施内容	4 アワビ増養殖技術開発					
	・ 市場調査と放流効果把握、漁場環境のモニタリング、アワビ増殖試験					
	全体計画					
		24	25	26	27	28
	藻場の減少原因の解明と復元・造成技術開発	○	○	○	○	○
イワガキ増殖技術開発	○	○	○	○	○	
ワカメ・メカブ養殖技術開発	○	○	○	○	○	
アワビ増養殖技術開発	○	○	○	○	○	
事業実績	予算 (単位:千円)					
		24	25	26	27	28
	当初	1,519	1,176	917		
	最終	1,442	926			
	磯根漁場高度利用化技術の確立 (H19～23) による成果と残された課題を見直すとともに、イワガキの資源添加技術の開発 (H20～24) を前倒し終了し、新たに本研究を立ち上げた。					
事業実績	1 藻場の減少原因の解明と復元・造成技術開発					
	・ 県南部沿岸において藻場及び環境状況について調査した。					
	2 イワガキ増殖技術開発					
	・ イワガキ付着基質表面の洗浄を県南部2箇所及び天王地区1箇所において実施した。					
	3 ワカメ・メカブ養殖技術開発					
・ フリー培養によるワカメ種苗量産、選抜育種、養殖の省力化、藻場造成試験を実施した。						
事業実績	4 アワビ増養殖技術開発					
	・ 県南部の産地市場において市場調査を行い、放流効果を把握した。					

事業名	ハタハタ資源の管理と活用に関する研究			担当	資源部	
事業年度	H26～30	事業主体	県	当初予算額	5,092 千円	
事業目的	ハタハタ仔稚魚の減耗要因、成育場、産卵場の詳細な把握により、資源量推定精度の向上を図るとともに、ハタハタ漁業の収益性を高める漁獲物の出荷形態を検討し、資源の持続的利用に向けた新たな資源管理方策を提言する。			財	国庫	千円
				源	一般	5,092 千円
				内	諸収入	千円
				訳		
実施内容	1 仔稚魚減耗要因調査					
	・ ハタハタ仔稚魚の分布密度調査、餌料プランクトン調査、生育環境調査、資源量推定					
	2 日本海北部系統群漁獲実態調査					
	・ 石川県以西域での漁獲実態調査、漁獲物の年齢組成調査					
	3 産卵場調査					
	・ 産卵場での卵塊密度調査、藻場調査、産卵場・成育場調査					
	4 漁獲物の活用方法					
	・ 現地実態調査、収益性向上のための出荷形態の検討					
	全体計画					
			26	27	28	29
仔稚魚減耗要因調査		○	○	○	○	○
日本海北部系統群漁獲実態調査		○	○	○	○	○
産卵場調査		○	○	○	○	○
漁獲物の活用方法		○	○	○	○	○
事業実績	予算 (単位: 千円)					
		26	27	28	29	30
	当初	5,092				
	最終					
「ハタハタの資源変動要因と漂着卵に関する研究」の概要 (H22～25)						
1 仔稚魚減耗要因調査						
・ ハタハタの仔稚魚は海底勾配の緩やかな水深100m以浅の海域を成育場とし、大型の動物プランクトンやアミ類を餌とすることが判ったが、春季の餌量と水温が生残に影響を及ぼす可能性がでてきた。						
2 日本海北部系統群漁獲実態調査						
・ 日本海各県の漁獲量の解析結果から、回遊範囲が従来推定していた新潟県より拡大し、石川県以西にまで広がっている可能性があることが判った。						
3 産卵場調査						
・ 産卵場においては、ホンダワラ類の着生密度が高いほど卵塊密度も高い傾向が窺われ、卵塊密度は最高で 300個/m ² 程度であることが判った。産卵総数を把握するためには、藻場面積の把握手法開発が必要である。						
4 漁獲物の活用方法						
・ ハタハタの年齢組成および雌雄比は漁獲年や操業場所、時期により大きく変動する。季節ハタハタの収益性を高めるためには、これらの漁獲特性を生かした操業方法および出荷形態を開発する必要がある。						

事業名	シジミなど湖沼河川の水産資源の維持、管理、活用に関する研究			担当	資源部	
事業年度	H26～30	事業主体	県	当初予算額	1,035 千円	
事業目的	県内の湖沼・河川の生産力を回復、維持、活用することを目的として、八郎湖でのシジミ資源の回復手法、十和田湖でのヒメマスの増殖・管理手法、河川におけるアユの漁況予測精度の向上手法、八郎湖における未利用資源であるコイ、フナの活用手法を開発する。			財 国 庫	千円	
				源 一 般	1,035 千円	
				内 諸 収 入	千円	
				訳		
実施内容	1 八郎湖シジミの生態把握、回復手法の開発					
	・ シジミの生息実態把握、生態解明、増殖手法開発、生息環境把握					
	2 十和田湖ヒメマスの増殖、管理手法の開発					
	・ ヒメマス増殖、管理技術開発、プランクトン調査、資源実態調査、魚病対策					
	3 河川アユ資源変動の把握、漁況予測精度の向上手法の開発					
	・ アユ稚魚の遡上、生育状況の把握、漁況情報の提供、釣獲実態把握					
	4 未利用資源の活用方法の開発					
	・ コイ、フナ類の漁獲実態把握、移殖、蓄養手法の開発					
	全体計画					
		26	27	28	29	30
	八郎湖シジミ	○	○	○	○	○
	十和田湖ヒメマス	○	○	○	○	○
	河川アユ	○	○	○	○	○
	未利用資源	○	○	○	○	
	事業実績	予算 (単位：千円)				
		26	27	28	29	30
当初		1,035				
最終						
「秋田の川と湖を守り豊かにする研究」(H21～25)等の概要						
1 八郎湖シジミの生態把握、回復手法の開発						
・ ヤマトシジミの人工採苗の基礎的技術はおもろ確立している。しかし、放流したシジミ稚貝は、コイによる食害により減耗することが確認されたため、対策技術の確立が必要である。						
2 十和田湖ヒメマスの増殖、管理手法の開発						
・ 青森県と共同で調査を行ってきた。本県は主にプランクトン調査及び水質調査を担当してきたが、これらは年により変動が大きいので、資源の維持・管理のために継続して調査する必要がある。						
3 河川アユ資源変動の把握、漁況予測手法の開発						
・ 阿仁川を中心にアユ稚魚の遡上、生育状況を把握し、新聞等を通じて遊漁者および一般県民に漁況情報の提供を行ってきた。						
4 未利用資源の活用手法の開発						
・ 八郎湖でのわかさぎ建網調査でコイ、フナ類が増加傾向にあることを確認した。						

事業名	我が国周辺水域資源調査			担当	資源部																											
事業年度	H17～26	事業主体	県	当初予算額	6,752 千円																											
事業目的	我が国周辺水域内の水産資源の状況や動向予測をより的確に把握し、その保存・管理に関する施策の実施に必要な基礎資料を整備するための調査などを行う。			財	国庫	千円																										
				源	一般	千円																										
				内	諸収入	6,752 千円																										
				訳																												
実施内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 漁場別漁獲状況調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小型底びき網、ベニズワイガニかご漁業の漁獲成績報告書の収集 2 生物情報収集調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ マダイ、ハタハタ、ヒラメなどの月別漁業種類別漁獲量の把握及び測定 3 沿岸資源動向調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ ウスメンバル、ヤナギムシガレイの漁業種類別漁獲量及び漁獲努力量の把握 4 漁場一斉調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 千秋丸によるズワイガニ漁場一斉調査 5 沖合海洋観測等調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 千秋丸による海洋観測及び卵母仔の採集 6 新規加入量調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 千秋丸によるヒラメ稚魚の採集 																															
事業実績	<p>予算（単位：千円）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>19</th> <th>20</th> <th>21</th> <th>22</th> <th>23</th> <th>24</th> <th>25</th> <th>26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当初</td> <td>7,786</td> <td>6,216</td> <td>6,416</td> <td>6,837</td> <td>7,423</td> <td>7,074</td> <td>7,074</td> <td>6,752</td> </tr> <tr> <td>最終</td> <td>7,786</td> <td>6,216</td> <td>6,837</td> <td>6,987</td> <td>7,074</td> <td>7,074</td> <td>6,753</td> <td>(見込み)</td> </tr> </tbody> </table>						19	20	21	22	23	24	25	26	当初	7,786	6,216	6,416	6,837	7,423	7,074	7,074	6,752	最終	7,786	6,216	6,837	6,987	7,074	7,074	6,753	(見込み)
		19	20	21	22	23	24	25	26																							
	当初	7,786	6,216	6,416	6,837	7,423	7,074	7,074	6,752																							
最終	7,786	6,216	6,837	6,987	7,074	7,074	6,753	(見込み)																								
<p>全国的レベルでの知見の蓄積を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 漁場別漁獲状況調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 月別の小型底びき網、ベニズワイガニかご漁業の漁獲成績報告書を収集し、FRESCOに入力した。 2 生物情報収集調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 月別の漁業種類別漁獲量を集計した。 3 沿岸資源動向調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ ウスメンバルの月別漁業種類別漁獲量を集計した。 4 漁場一斉調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ ズワイガニについて、試験操業により資源状態を把握した。 5 沖合海洋観測等調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 4～6月、10、11、3月に「沿ニ-10線」において、海洋観測及び卵母仔採集を実施した。 6 新規加入量調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ ヒラメについて、小型板びき網試験操業で新規加入量を把握した。 <p>【備考】 水産庁からの委託による、(独)水産総合研究センターを代表者とする関係機関の共同研究</p>																																

事業名	大型クラゲ出現調査及び情報提供事業			担当	資源部																											
事業年度	H18～26	事業主体	県	当初予算額	2,350 千円																											
事業目的	大量来遊の恒常化が懸念される大型クラゲについて、本県海域への来遊状況をモニタリングし、関係機関等へ迅速に情報提供を行う。			財	国庫	千円																										
				源	一般	千円																										
				内	諸収入	2,350 千円																										
				訳																												
実施内容	<p>1 大型クラゲ出現状況調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 本県沖合に定点を設け、大型クラゲの出現状況について千秋丸により海面の目視を実施する。 <p>2 大型クラゲ一斉調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 本県沖合に定点を設け、大型クラゲの出現状況について千秋丸により魚群探知機による調査を実施する。 <p>3 大型クラゲ出現聞き取り調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内の底びき網及び定置網漁業者から、大型クラゲの出現状況について情報を収集し、関係機関等へ情報提供する。 																															
事業実績	<p>予算 (単位: 千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>19</th> <th>20</th> <th>21</th> <th>22</th> <th>23</th> <th>24</th> <th>25</th> <th>26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当初</td> <td>2,500</td> <td>2,015</td> <td>2,150</td> <td>2,150</td> <td>2,500</td> <td>2,350</td> <td>2,350</td> <td>2,350</td> </tr> <tr> <td>最終</td> <td>2,015</td> <td>1,730</td> <td>2,150</td> <td>2,150</td> <td>2,000</td> <td>2,350</td> <td>2,350</td> <td>(見込み)</td> </tr> </tbody> </table> <p>1 大型クラゲ出現状況調査</p> <ul style="list-style-type: none"> H25年9月から26年1月にかけて21回、千秋丸による洋上での目視観察及び底びき網への入網状況を調査し、9月に14個体、10月に18個体の大型クラゲを確認した。 <p>2 大型クラゲ一斉調査</p> <ul style="list-style-type: none"> H25年10～11月にかけて4回、カラー魚群探知機を使用して分布調査を行ったが、大型クラゲは確認されなかった。 <p>3 大型クラゲ出現聞き取り調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 底びき網漁業者、定置網漁業者各6経営体を対象に、操業時ごとの大型クラゲの入網状況について調査を行った。大型クラゲの入網は9～12月上旬まで認められた。9～10月にかけては約2,700個体と多く出現し、漁獲物の鮮度低下や作業時間の延長などの被害をもたらした。11月以降の出現数は急速に減少し、12月上旬に4個体出現したのみで、それ以降の確認はない。 						19	20	21	22	23	24	25	26	当初	2,500	2,015	2,150	2,150	2,500	2,350	2,350	2,350	最終	2,015	1,730	2,150	2,150	2,000	2,350	2,350	(見込み)
	19	20	21	22	23	24	25	26																								
当初	2,500	2,015	2,150	2,150	2,500	2,350	2,350	2,350																								
最終	2,015	1,730	2,150	2,150	2,000	2,350	2,350	(見込み)																								

6 主要行事・会議等

(1) 主要行事・会議

行事・会議	開催日	開催場所
三種川河川整備計画検討委員会	H25. 4. 19	三種町
地域振興局農林部農林振興普及課長等会議	H25. 4. 23～24	秋田市
雄物川水系サクラマス協議会総会	H25. 4. 24	湯沢市
第1回公設試連携調整会議	H25. 4. 25	秋田市
秋田県内水面漁業協同組合連合会理事会	H25. 4. 26	秋田市
船川港湾利用者会議	H25. 4. 26	男鹿市
航空防除事故防止対策委員会	H25. 5. 1	秋田市
地域振興局農林部長・地方機関長会議	H25. 5. 7	秋田市
オリジナルワカメ現地推進協議会	H25. 5. 7	水産振興センター
ます類種苗需給調整会議・魚病講習会	H25. 5. 14	潟上市
産学官ネットワーク運営会議	H25. 5. 15	秋田市
栽培施設更新ワーキンググループ会議	H25. 5. 16	男鹿市
第1回農林水産関係試験研究機関場所長会議	H25. 5. 17	秋田市
第1回食品産業振興連絡会	H25. 5. 17	秋田市
船川港港湾振興会総会	H25. 5. 20	男鹿市
資源管理研究会	H25. 5. 21	横浜市
防災気象情報等に関する連絡会	H25. 5. 22	秋田市
(財)秋田県栽培漁業協会評議員会	H25. 5. 28	秋田市
第10回海フェスタおが実行委員会	H25. 5. 29	秋田市
全国水産試験場長会第1回幹事会・第1回海面部会	H25. 5. 30～31	東京都
第10回海フェスタおが実行委員会幹事会	H25. 6. 3	男鹿市
秋田県内水面漁業協同組合連合会河川流域振興活動実践事業検討会議	H25. 6. 3	秋田市
男鹿市水産振興会	H25. 6. 4	男鹿市
本州日本海北部地区水産環境整備協議会	H25. 6. 13～14	鱒ヶ沢町
環境生態系協議会解散総会・多面的機能設立総会	H25. 6. 14	秋田市
十和田湖ヒメマス放流式	H25. 6. 20	小坂町
東北・北海道内水面試験研究連絡協議会	H25. 6. 25～26	猪苗代町
栽培推進事業マダイ・ヒラメ部会	H25. 7. 3	水産振興センター
第10回海フェスタおがりハーサル	H25. 7. 5	男鹿市
脇本地区産地協議会（イワガキ漁場整備）	H25. 7. 9	男鹿市
第10回海フェスタおがりハーサル	H25. 7. 11	男鹿市
第38回全国養鱒技術協議会	H25. 7. 12	東京都
第10回海フェスタおが開会式	H25. 7. 13	男鹿市
底曳船長会連合会総会	H25. 7. 13	秋田市
第10回海フェスタおが千秋丸一般公開	H25. 7. 15	秋田市
第10回海フェスタおが記念式典、記念祝賀会	H25. 7. 17	男鹿市
北部日本海ブロック水産試験場連絡協議会	H25. 7. 18	富山市
八郎湖研究会第1回全体会	H25. 7. 25	秋田市
水産振興センター参観デー	H25. 7. 27	水産振興センター

(続き)

行 事・会 議	開 催 日	開 催 場 所
第10回海フェスタおが閉会式	H25. 7. 28	男鹿市
秋田県沿岸環境・生態系保全対策地域協議会第1回総会	H25. 8. 5	秋田市
さけ・ます関係研究機関等推進会議	H25. 8. 5	札幌市
第1回秋田県地域プロジェクト協議会	H25. 8. 7	秋田市
水産振興センター研究運営協議会	H25. 8. 27	水産振興センター
河川流域振興活動実践事業検討会議	H25. 8. 31	仙北市
第1回玉川・田沢湖圏域河川整備計画検討委員会	H25. 9. 3	仙北市
アユ種苗生産技術連絡会議	H25. 9. 3	東京都
研究課題評価委員会	H25. 9. 4	秋田市
全国湖沼河川養殖研究会第86回大会	H25. 9. 5～6	千葉市
資源評価調査日本海ブロック資源評価会議	H25. 9. 5～6	新潟市
(財)秋田県栽培漁業協会放流式	H25. 9. 10	男鹿市
内水面関係研究開発推進会議	H25. 9. 11～12	宇都宮市
平成25年度さけ・ます資源高品質化推進事業	H25. 9. 18	秋田市
第1回秋田県広域調整協議会		
第1回サケ増殖事業関係者会議	H25. 9. 18	秋田市
第1回秋田県水産業振興検討会	H25. 9. 30	秋田市
平成25年度健全な内水面生態系復元等推進事業に係る研修会	H25. 10. 4	北秋田市
食の国あきた県民フェスティバル	H25. 10. 5	秋田市
全国水試場長会会長賞表彰審査委員会・第2回海面部会	H25. 10. 7	東京都
全国水産試験場長会第2回幹事会・第1回地域水産試験研究振興協議会	H25. 10. 8	東京都
(公財)秋田県栽培漁業協会発足式	H25. 10. 18	男鹿市
内外情勢調査会	H25. 10. 21	秋田市
秋田オリジナルワカメ拡大事業第2回現地推進協議会	H25. 10. 22	水産振興センター
日本海北部海域広域資源管理検討会議	H25. 10. 23	新潟市
日本海栽培漁業センター所長連絡会議	H25. 10. 24	神戸市
日本海種苗生産研究会	H25. 10. 24	神戸市
全国養殖衛生管理推進会議	H25. 10. 25	東京都
第1回ハタハタ資源対策協議会	H25. 10. 29	秋田市
第2回秋田県水産業振興検討会	H25. 10. 30	秋田市
第2回秋田県地域プロジェクト協議会	H25. 10. 30	秋田市
平成25年度内水面関係研究開発推進会議	H25. 10. 30～31	上田市
資源・生態系保全部会及び内水面増養殖部会		
磯焼け対策全国協議会	H25. 11. 5	東京都
ハタハタ資源対策協議会沖合・沿岸部会	H25. 11. 6	秋田市
機関業務評価委員会	H25. 11. 8	秋田市
瀬戸内海ブロック水産業研究開発推進会議増養殖部会	H25. 11. 12	広島市
トラフグ全国会議		
日本海ブロック水産業関係研究開発推進会議	H25. 11. 12	新潟市
日本海資源生産研究部会ヒラメ分科会		

(続き)

行 事・会 議	開 催 日	開 催 場 所
日本海資源生産研究部会	H25. 11. 13	新潟市
全国水産試験場長会全国大会	H25. 11. 14	岡山市
日本海ブロック漁業資源・海洋環境研究合同部会	H25. 11. 14	新潟市
瀬戸内海ブロック水産業関係研究開発推進会議増養殖部会 ガザミ分科会	H25. 11. 14	別府市
東北ブロック水産業関係研究開発推進会議資源生産部会 貝毒研究分科会	H25. 11. 15	仙台市
第10回海フェスタおが実行委員会幹事会	H25. 11. 18	男鹿市
第2回ハタハタ資源対策協議会	H25. 11. 19	秋田市
第2回玉川・田沢湖圏域河川整備計画検討委員会	H25. 11. 26	大仙市
第2回農林水産部試験研究機関場所長会	H25. 11. 27	秋田市
第10回海フェスタおが総会	H25. 11. 28	男鹿市
第3回秋田県水産業振興検討会	H25. 11. 29	秋田市
海洋水産資源開発事業成果報告会	H25. 12. 2	東京都
魚病症例研究会	H25. 12. 5～6	伊勢市
全国湖沼河川養殖研究会マス類資源研究部会	H25. 12. 5	東京都
水産増養殖関係研究開発推進会議魚病部会	H25. 12. 6	伊勢市
養殖衛生管理技術者養成研修専門コース	H25. 12. 10～19	東京都
もうかる漁業定置改革部会	H25. 12. 12	男鹿市
日本海ブロック水産業関係研究開発推進会議	H25. 12. 12～13	新潟市
米代川水系サクラマス協議会研修会	H25. 12. 17	藤里町
漁業構造改革総合対策事業中央協議会	H25. 12. 18	東京都
(公財)秋田県栽培漁業協会理事会	H25. 12. 24	秋田市
三種川河川整備計画検討委員会	H25. 12. 24	三種町
北海道磯焼け対策連絡会議	H26. 1. 17	札幌市
第1回生態系の保全に係る実践活動事業検討会議	H26. 1. 17	秋田市
秋田県青年・女性漁業者交流大会	H26. 1. 21	秋田市
日本海ブロック資源評価担当者会議	H26. 1. 21～22	新潟市
日本海ブロック資源研究会	H26. 1. 22	新潟市
都道府県水産関係試験研究機関長会議	H26. 1. 22	東京都
さけ・ます関係研究開発推進会議研究部会 サクラマス分科会	H26. 1. 27	新潟市
第3回秋田県地域プロジェクト協議会	H26. 1. 28	男鹿市
第2回生態系の保全に係る実践活動事業検討会議	H26. 2. 4	秋田市
全国湖沼河川養殖研究会アユ資源研究部会	H26. 2. 4～5	東京都
水産増養殖関係研究開発推進会議魚病部会クドア研究会	H26. 2. 7	東京都
情報収集・解析及び情報提供委託事業調査推進検討会 (大型クラゲ)	H26. 2. 7	東京都
第9回シジミ資源研究会	H26. 2. 20～21	新潟市
放流用種苗育成手法開発事業成果検討会	H26. 2. 24	横浜市
第3回十和田湖水質保全検討会	H26. 2. 24	秋田市

(続き)

行事・会議	開催日	開催場所
内水面漁業協同組合運営実態把握研究成果報告会	H26. 2. 25	東京都
水産増養殖関係研究開発推進会議養殖産業部会 第3回アワビ研究会	H26. 2. 27	横浜市
漁業構造改革総合対策事業中央協議会	H26. 2. 27	東京都
第2回地域水産試験研究振興協議会	H26. 2. 27	東京都
全国水産業関係研究開発推進会議	H26. 2. 28	横浜市
全国水産試験場長会第3回幹事会	H26. 2. 28	横浜市
スルメイカ資源評価協議会	H26. 3. 3	横浜市
第19回全国青年・女性漁業者交流大会	H26. 3. 3～5	東京都
十和田湖水質・生態系会議	H26. 3. 4	青森市
十和田湖資源対策会議	H26. 3. 5	青森市
日本海ブロック増養殖研究会	H26. 3. 6	新潟市
秋田県立大学・県農林水産関係公設試験場・県総合食品研 究センター研究推進協議会	H26. 3. 10	秋田市
第3回農林水産部試験研究機関場所長会	H26. 3. 10	秋田市
第2回食品産業振興連絡会	H26. 3. 10	秋田市
第3回ハタハタ資源対策協議会	H26. 3. 12	秋田市
秋田県資源管理協議会年度末総会	H26. 3. 12	秋田市
秋田オリジナルワカメ拡大事業第3回現地推進協議会	H26. 3. 17	水産振興センター
平成25年度さけ・ます資源高品質化推進事業 第2回秋田県広域調整協議会	H26. 3. 18	秋田市
(公財)秋田県栽培漁業協会理事会	H26. 3. 20	秋田市
八郎湖研究会第2回全体会	H26. 3. 25	秋田市
秋田県水産振興協議会	H26. 3. 26	秋田市

(2) 研究管理のための場内会議・検討会

会議・検討会	開催日	開催場所
試験研究計画検討会	H25. 4月16, 18, 19日	水産振興センター講義室
試験研究中間検討会	H25. 10月16, 17日、11月1日	水産振興センター講義室
研究懇談会(藻場・磯根)	H25. 11月25日	水産振興センター閲覧室
試験研究成果検討会	H26. 2月24～26日	水産振興センター講義室

7 技術支援

(1) 委員応嘱

名 称	役 職	職 名	氏 名
第10回海フェスタおが実行委員会幹事会	幹事	所長	中村彰男
船川港湾振興会	参与	所長	中村彰男
(財)秋田県栽培漁業協会（～H25.9.30）	評議員	所長	中村彰男
(公財)秋田県栽培漁業協会（H25.10.1～）	理事	所長	中村彰男
漁業構造改革総合対策事業 秋田地域プロジェクト協議会	委員	所長	中村彰男
漁業構造改革総合対策事業 定置漁業改革部会	委員	総務企画室長	柴田理
河川流域振興活動実践事業検討委員会	委員	資源部長	山田潤一
玉川・田沢湖圏域河川整備計画検討委員会	委員	専門員	渋谷和治
三種川河川整備計画検討委員会	委員	専門員	渋谷和治
航空防除推進協議会事故防止対策委員会	委員	研究員	加藤芽衣

(2) 講師派遣

月・日	主 催 者	内 容	担当部	派遣者
H25.7.18	(公社)日本水産資源保護協会	ハタハタの生態と秋田県における資源管理について	資源部	甲本亮太
H25.9.26	(公社)秋田県食品衛生協会	フグの衛生と鑑別について	資源部	山田潤一
H25.9.26	北秋田市立鷹巣南小学校	人の力で水産資源を増やす「栽培漁業」	総務企画室	土田織恵
H25.12.10	秋田市中央公民館	秋田の海に集う魚たち	総務企画室	土田織恵

(3) 受入研修

① インターンシップ事業等

期 間	研修者の所属・数	内 容
H25.7.27、8.5	男鹿東中学校 2名	参観デー手伝い、海岸清掃、魚類同定・測定、水質調査、クルマエビ餌やり・底掃除
H25.7.30～8.1	教員免許状更新講習 3名	水産関係全般に係る講義、実習、テスト
H25.8.21～23	秋田県立大学生物資源科学部 3名	(演習)藻場、栽培漁業、魚介類の同定・計測、プランクトン分類 (見学)漁協、漁港、加工所、千秋丸 (講義)有害生物、クニマス
H25.9.10～12	男鹿海洋高校 2名	乗船実習（底びき網、クラゲ調査、サメ駆除）
H25.11.7	国際協力機構（JICA） 西アフリカ諸国行政官研修 11名	(講義)水産振興センターについて、ハタハタ、普及活動 (見学)所内、千秋丸

② 千秋丸体験乗船

期 間	乗船者の所属・数	内 容
H25. 4. 17	男鹿海洋高校海洋環境科 2年×7名、2年×6名	体験乗船・観測（2航海）
H25. 4. 19	男鹿海洋高校海洋環境科 3年×9名、3年×8名	体験乗船・観測（2航海）
H25. 4. 24	男鹿海洋高校海洋環境科 2年×8名、2年×7名	体験乗船・観測（2航海）
H25. 4. 25	男鹿海洋高校海洋科 1年×10名、1年×10名	体験乗船・観測（2航海）
H25. 4. 26	男鹿海洋高校海洋環境科 3年×9名、 食品科学科 1年×9名	体験乗船・観測（2航海）
H25. 5. 15	男鹿海洋高校海洋科学科 2年×11名	ハタハタ資源調査（1航海）
H25. 5. 16	男鹿海洋高校海洋科 1年×9名	体験乗船・観測（1航海）
H25. 5. 17	男鹿海洋高校食品科学科 1年×9名、1年×9名	体験乗船・観測（2航海）
H25. 5. 23	男鹿海洋高校海洋環境科 2年×11名	底びき網調査（1航海）
H25. 5. 24	男鹿海洋高校海洋環境科 3年×5名	底びき網調査（1航海）
H25. 6. 5	男鹿海洋高校海洋環境科 2年×8名	ハタハタ資源調査（1航海）
H25. 6. 7	男鹿海洋高校海洋環境科 3年×9名	ハタハタ資源調査（1航海）
H25. 6. 19	男鹿海洋高校海洋環境科 2年×9名	底びき網調査（1航海）
H25. 6. 21	男鹿海洋高校海洋環境科 3年×9名	底びき網調査（1航海）
H25. 6. 25	北浦青年部 9名	体験乗船、トラフグ延縄（1航海）
H25. 6. 26	男鹿海洋高校海洋環境科 2年×9名	ハタハタ資源調査（1航海）
H25. 7. 5	男鹿海洋高校海洋環境科 3年×6名	底びき網調査（1航海）
合計17日	延べ196名	合計23回

※ 平成25年度から「海洋環境科」と「海洋科学科」は「海洋科」と「食品科学科」になっている。

※ 各実習には教員2名が同乗

8 研究成果の発表・広報

(1) 主要刊行物の発行状況

誌名	発行時期	部数等	備考
平成24年度業務報告書	H25年9月	220部	「美の国あきたネット」へ掲載

(2) 不定期刊行物の発行状況

誌名	発行時期	部数等	備考
群来(第70号)	H25年12月	600部	「美の国あきたネット」へ掲載

(3) 実用化できる試験研究成果（平成25年度試験研究成果）

事項	内容	研究期間	担当部
参考	スギ間伐材を利用したサクラマス人工産卵場 造成の技術開発	H20～21 H23～25	増殖部

(4) 学会誌・研究会誌等

論文名	執筆者	発行誌名	掲載年月・ 号数・ページ
Incidence of a Skeletal Deformity (Truncated Upper Jaw) in an Isolated Population of White Spotted Charr <i>Salvelinus leucomaenis</i>	S. Yamamoto, K. Morita, R. Yokoyama, K. Miyamoto, M. Sato, and K. Maekawa	Journal of Ichthyology	2013, Vol. 53, No. 10, pp. 1-6.
飼育ハタハタの耳石による酸素安定同位体 比と水温履歴の再考	藤原邦弘、 山田達也、 山本岳男、 松倉隆一、 甲本亮太	東北底魚研究	2013, 33, 20-22

(5) 学会発表・研究会発表等

① 学会発表

学会等の名称	月日	開催場所	題目	発表者
平成25年度日本水産学会 東北支部大会	H25. 11. 8 ～9	盛岡市	阿仁川支流小様川から標識放流され たサクラマス幼魚の分布と成長	佐藤正人
北日本漁業経済学会 第42回大会	H25. 11. 9 ～10	札幌市	昭和年代末期の秋田県における底 びき網漁業減船に関する一考察	中村彰男

② 研究会発表・報告

研究会等の名称	月日	開催場所	題目	発表者
平成25年度巡回教室	H25. 7. 18	珠洲市	ハタハタの生態と秋田県における資源管理	甲本亮太
平成25年度日本海種苗生産研究会	H25. 10. 24	神戸市	異なる水温条件によるトラフグ種苗生産の加温に要する熱量の相対比較	斎藤和敬
平成25年度魚病症例研究会	H25. 12. 5 ～6	伊勢市	アユ養殖施設で発生したシュートモナス症について	加藤芽衣
全国湖沼河川養殖研究会 平成25年度マス類資源研究部会	H25. 12. 5 ～6	東京都	阿仁川支流小様川から標識放流されたサクラマス幼魚の分布と成長	佐藤正人
平成25年度秋田県青年・女性漁業者交流大会	H26. 1. 21	秋田市	秋田県におけるハタハタに対する消費者の購入嗜好	小笠原誠
第11回日本海ブロック資源研究会	H26. 1. 22	新潟市	秋田県におけるハタハタに対する消費者の購入嗜好	小笠原誠
第11回日本海ブロック資源研究会	H26. 1. 22	新潟市	秋田県沿岸に産卵回遊するハタハタの移動特性	甲本亮太
平成25年度さけ・ます関係研究開発推進会議研究部会 サクラマス分科会	H26. 1. 27	新潟市	秋田県におけるサクラマス研究の結果概要	佐藤正人 山田潤一
平成25年度全国湖沼河川養殖研究会 アユ資源研究部会報告会	H26. 2. 4 ～5	東京都	米代川水系におけるアユ産卵場の形成要因に関する調査結果－2	佐藤正人
平成25年度日本海ブロック水産業関係研究開発推進会議日本海資源生産研究部会増養殖研究会	H26. 3. 7	新潟県	秋田県のトラフグ保育場における種苗放流サイズ等について	斎藤和敬

③ 会議発表・報告

会議等の名称	月日	開催場所	題目	発表者
平成25年度東北・北海道内水面試験連絡協議会	H25. 6. 25 ～26	猪苗代町	秋田県におけるサクラマス生息域拡大に向けた取り組み	佐藤正人
平成25年度十和田湖資源対策会議	H26. 3. 5	青森市	2013年度十和田湖資源対策調査結果	高田芳博

④ 講演会

主催	月日	開催場所	題目	発表者
雄物川水系サクラマス協議会	H25. 4. 24	湯沢市	米代川水系から標識放流されたサクラマスの移動状況と成長速度	佐藤正人
秋田県立大学	H25. 5. 10	秋田市	秋田県におけるハタハタの資源管理	中村彰男
秋田県生涯学習センター	H25. 7. 20	秋田市	あきたふるさと学講座復興支援のかたち 東日本大震災の水産被害と水産復興支援 ～日本海側からのヒラメ・アユ種苗など～	中村彰男
秋田県内水面漁業協同組合連合会	H25. 10. 4	北秋田市	米代川におけるアユ産卵場調査結果	佐藤正人

(6) 新聞等への掲載

誌名等	掲載月日	見出し	担当部
魁	H25. 4. 8	需要とらえた生産出荷へ（秋田オリジナルワカメ）	増殖部
魁	H25. 4. 11	オレンジの珍アンコウ	資源部
魁	H25. 4. 18	「千秋丸」実習スタート	資源部
魁	H25. 5. 17	男鹿産ギバサ水揚げ始まる	資源部
魁	H25. 6. 8	秋田生まれのハタハタ能登半島以西まで旅	資源部
魁	H25. 6. 15	来年度後半にもクニマス里帰り	増殖部
魁	H25. 6. 26	アンコウの卵漂着	増殖部
魁	H25. 6. 26	眼の位置が逆の“右ヒラメ”水揚げ	資源部
魁	H25. 7. 4	採卵用アユ試験採取	増殖部
魁	H25. 8. 2	ワタリガニの一種本県沿岸で初捕獲	資源部
魁	H25. 9. 25	足はタコ、頭はイカ（ムラサキダコ捕獲）	資源部
魁	H25. 10. 9	台風被害の岩手支援（アユ受精卵提供）	増殖部
魁	H25. 10. 16	サクラマス採卵ピーク	増殖部
魁	H25. 10. 30	ハタハタ漁獲枠1920トン	資源部
読売	H25. 10. 30	ハタハタ漁獲枠780トン減	資源部
朝日	H25. 10. 30	ハタハタ漁獲枠昨季比780トンの減	資源部
水経	H25. 10. 31	大幅減、1920トンに	資源部
魁	H25. 11. 2	秋田火力発電所蒸気冷却大量の海水（過去の養殖試験）	増殖部
魁	H25. 11. 8	ハタハタ底引き漁好調	資源部
魁	H25. 11. 9	希少な“湖の恵み”に（八郎湖の漁獲物）	資源部
魁	H25. 11. 13	ハタハタ禁漁、稚魚生産 本県の漁業政策学ぶ（JAICA）	総務企画室
魁	H25. 11. 20	季節ハタハタ29日ごろ初漁	資源部
読売	H25. 11. 20	季節ハタハタ初漁日29日予想	資源部
朝日	H25. 11. 20	今季初漁、29日と推定	資源部
魁	H25. 11. 29	季節ハタハタ初水揚げ	資源部
読売	H25. 11. 29	「季節ハタハタ」待ちかねた初漁	資源部

誌名等	掲載月日	内 容	担当部
朝日	H25. 11. 29	ハタハタ初漁1.5トン	資源部
魁	H25. 12. 5	男鹿の海にヒラスズキ	資源部
魁	H25. 12. 28	季節ハタハタ漁低調	資源部
魁	H26. 1. 18	稚アユが里帰り	増殖部
魁	H26. 1. 22	最優秀賞に猿田さん（全国青年女性漁業士交流大会）	総務企画室
魁	H26. 1. 25	珍しい魚類	資源部
魁	H26. 2. 8	藻体の大型化に成功	増殖部
魁	H26. 2. 27	ボタメ系ワカメおいしさ知って	増殖部
朝日	H26. 2. 28	「秋田ワカメ」確立へ試食会	総務企画室
魁	H26. 3. 13	季節ハタハタ898トン	資源部
朝日	H26. 3. 13	ハタハタ漁獲1455トン	資源部
読売	H26. 3. 13	季節ハタハタ“南高北低”	資源部
魁	H26. 3. 25	クニマス7501匹生息 卵譲り受け想定本県側準備進む	増殖部
読売	H26. 3. 26	山梨・西湖 クニマス完全養殖めど	増殖部

(7) ホームページの更新・アクセス数

① ホームページの更新

年月日	見 出 し
H25. 4. 8	海洋高校生がハタハタ稚魚を取り上げ
H25. 4. 12	秋田市沖で「橙色のキアンコウ」が獲れました
H25. 4. 18	貝毒プランクトン出現状況
H25. 4. 26	秋田県漁獲情報
H25. 5. 10	男鹿海洋高校の乗船実習が始まりました。
H25. 5. 10	軽トラ一杯のアブラツノザメ
H25. 5. 17	トラフグ種苗生産が始まりました
H25. 5. 22	船川港、県外イカ釣り漁船初水揚げ
H25. 5. 27	男鹿海洋高校底びき網体験始まる
H25. 5. 29	少年水産教室へのお礼の手紙が届きました
H25. 5. 29	スルメイカ水揚げ本格化
H25. 6. 6	魚海況モニタリング情報（スルメイカ関係）
H25. 7. 3	目が逆位のヒラメ
H25. 7. 4	漁業者への乗船研修を実施
H25. 7. 5	ガザミの出荷が始まる
H25. 7. 9	秋田県水産振興センター参観デー「平成25年7月27日(土)」
H25. 7. 19	海フェスタおがイベント 千秋丸の一般公開を行いました
H25. 7. 19	被災地支援ヒラメ種苗輸送始まる
H25. 8. 7	第8回秋田県水産振興センター参観デー開催
H25. 9. 24	北浦漁港において（マダイ・ヒラメ）放流式が行われました
H25. 10. 4	平成24年度 ハタハタ資源対策協議会資料
H25. 11. 5	平成24年度 業務報告書
H25. 11. 5	ワカメの養殖が始まりました

年月日	見出し
H25. 11. 12	国際協力機構（ジャイカ）の西アフリカ行政官研修
H25. 11. 14	施設見学のお礼の手紙
H25. 11. 19	平成25年度 ハタハタ資源対策協議会資料
H25. 11. 27	能代港で「ギンガメアジ」が釣れました
H25. 12. 2	季節ハタハタ漁の初漁
H25. 12. 25	岩手県へ稚アユを出荷しました
H26. 1. 6	平成25年度 業務概要
H26. 1. 6	群来
H26. 1. 9	水産振興センターの業務案内
H26. 1. 23	ナンヨウカイワリ（秋田県では初報告）
H26. 1. 23	平成24年度 業務報告書
H26. 1. 31	（所内）ハタハタ寿司品評会
H26. 2. 6	平成25年度秋田県青年・女性漁業者交流大会
H26. 3. 5	秋田県水産振興センターの施設使用料が改正されます
H26. 3. 11	秋田県におけるハタハタ漁獲量の推移
H26. 3. 12	平成25年度 ハタハタ資源対策協議会資料
土日祝日以外	きょうの海水温
毎日更新	漁況旬報
毎旬更新	海洋観測結果
毎月更新	平成25年度の大型クラゲ出現情報
適宜更新	秋田県漁獲情報
	調査船 運航計画・実績
	貝毒プランクトン出現状況

② コンテンツアクセス数

コンテンツ	閲覧数(件)
きょうの海水温	22,033
海洋観測結果	592
漁況旬報	1,283
秋田県漁獲情報	1,206
大型クラゲ来遊情報	1,156
貝毒プランクトン出現状況	653
ハタハタ資源対策協議会	2,460
見学・研修の申し込み	455
事業報告書・業務報告書	2,433
群来	360
調査船 運航計画・実績	494
珍しい魚など	14,746
その他のコンテンツ 合計	28,052

9 知的財産

(1) 特許関連一覧

NO	特許の名称	発明者	共同出願者	特許出願日 出願番号	出願公開 公開番号	特許登録 登録番号	備考
1	γ-アミノ酪酸強化発酵食品の製造方法	船木勉	総合食品研究所	H15.8.6 特願2003-287680	H17.3.3 特開2005-52103	H21.6.12 特許第4320757号	
2	ハタハタ卵巣由来の粘質物、その取得方法および用途	杉山秀樹、船木勉	総合食品研究所	H15.9.8 特願2003-315142	H17.3.31 特開2005-82525	H22.6.11 特許第4524467号	
3	ハタハタ卵巣の凍結加工品の製造方法	船木勉	総合食品研究所	H18.9.29 特願2006-266698	H20.4.10 特開2008-079580	H23.4.8 特許第4714879号	
4	海藻種糸巻付器及びその使用方法	斎藤和敬		H21.11.20 特願2009-265240	H23.6.2 特開2011-103853	H25.9.27 特許第5370095号	
5	海藻種糸巻付器の使用法	斎藤和敬		H25.6.26 特願2013-133293	H25.10.3 特開2013-198500	H25.9.27 特許第5370977号	特願2009-265240の分割

10 視察・見学・総合学習

(水産振興センター)

(人)

年月日	視察・見学者・総合学習	見学者数
'13. 6. 11	秋田市立飯島南小学校	85
H26. 6. 11	五城目青年団OB	10
'13. 6. 13	秋田市立明德小学校	47
'13. 6. 20	秋田市立保戸野小学校	48
'13. 6. 20	農林中央金庫秋田支店	8
'13. 6. 20	日本郵政(株)	9
'13. 6. 26	男鹿市立払戸小学校	18
'13. 6. 27	男鹿市立船川南小学校	16
'13. 6. 27	秋田市立太平小学校	15
'13. 7. 3	湯沢市役所 消費者の会	25
'13. 7. 4	在京秋田県高等学校同窓会連合会	23
'13. 7. 11	はまなす会	37
'13. 7. 12	秋田市立泉小学校	95
'13. 7. 31	秋田県立大学	3
'13. 8. 5	男鹿市立男鹿東中学校	6
'13. 8. 21	三種町立三種小学校	25
'13. 8. 27	男鹿市立船越小学校	57
'13. 8. 28	宮城県丸森町 町づくりセンター	9
'13. 8. 30	大仙市立西仙北小学校	50
'13. 9. 5	潟上市立大豊小学校	53
'13. 9. 6	秋田市立仁井田小学校	108
'13. 9. 11	大仙市立太田東小学校	24
'13. 9. 19	北秋田市立鷹巣東小学校	12
'13. 9. 20	秋田市立旭川小学校	87
'13. 9. 25	秋田市立上北手小学校	30
'13. 9. 26	計量証明事業所協議会	25
'13. 9. 27	五城目町立大川小学校	11
'13. 9. 30	三種町立金岡小学校	16
'13. 10. 9	井川町食品生活改善推進協議会	30
'13. 10. 9	秋田市立御野場中学校	4
'13. 10. 10	秋田市立西中学校	4
'13. 10. 17	男鹿市立鶴木小学校	18
'13. 10. 17	男鹿市立船川第一小学校	37
'13. 10. 18	秋田市立土崎中学校	15
'13. 10. 23	秋田市南部公民館	40
'13. 10. 24	三種町立浜口小学校	31
'13. 11. 12	新潟県新発田市淡水魚養殖組合	10
'13. 11. 26	率浦大学(五城目町生涯学習課扱い)	30
'13. 12. 24	八郎潟町公民館	28
'14. 2. 12	北海道檜山郡上ノ国町議会	5
合計	40団体	1,204人

(内水面試験池)

(人)

年月日	視察・見学者・総合学習	見学者数
'13. 5.10	潟上市 市民	2
'13. 5.14	角館漁協	1
'13. 6.17	北秋田市 市民	20
'13. 9.19	北秋田市 市民	3
'13. 9.29	北秋田市 市民	50
'13.10.19	北秋田市 市民	1
'13.10.21	一般	10
'13.11.15	秋田市 市民	2
'14. 1.20	日通プロパン鷹巣販売(有)	1
'14. 1.30	(株)両羽秋田支店	2
合計	10団体	92人